

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	イクイップメント	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験21年 サポートドラマーとして、様々なジャンルの有名アーティストのライブ、レコーディングに参加。ドラムの教則本を出版。				
授業概要					
ドラムの基礎知識についての講義 ※前期、または後期のみ					
到達目標					
楽器の構造や発音原理の修得					

授業計画・内容	
【前期or後期】 1～4回目	ドラムメーカーの歴史と特徴。 ドラムスティックの種類、材質、形が音にどのように影響するか。 ブラシ、ロッズ、マレットの種類と奏法について。
【前期or後期】 5～8回目	フットペダルの各部名称とセッティング、調整の仕方。 スネアドラムの各部名称とメンテナンス方法。 スネアワイヤーの材質、種類、取り付け方法。
【前期or後期】 9～12回目	スネアドラムのシェルの材質による音の違い。 スネアドラムのチューニング方法。 ドラムヘッドの種類と音の特徴。
【前期or後期】 13～16回目	ドラムのミュート方法とその効果。 シンバルメーカーの歴史と特徴。 シンバルの材質、厚さによる音の違い。
【前期or後期】 17～19回目	各種スタンドの操作方法。タムタムの種類とサイズ、各部名称。 バスドラムの種類とサイズ、各部名称。ドラムセットのセッティング方法。 ドラムセットのチューニング方法。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	楽器の特性を知って自分で自分の求める楽器が選べるドラマーになりましょう。
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ドラマー学		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験31年 1990年デビュー。その後、有名アーティストのライブサポートやレコーディングに参加。 TVの音楽番組へのレギュラー出演、ミュージカルのドラム指導、レコーディング、サウンドプロデュース等幅広く活躍中。				
授業概要					
現代の日本の音楽業界で使用されている用語や用法を使用して読譜及び基礎音楽理論を学ぶ。 ※前期、または後期のみ					
到達目標					
リアリティーのある音楽的知識や考え方を身に付け、ドラマーとして活動していくために必要な音楽セオリーを、ドラマーの立場から学ぶことによる、音楽家としての成長。					

授業計画・内容	
【前期or後期】 1～2回目	自己紹介。音楽理論や読譜に対する経験値、考え方などのアンケート。授業の趣旨や注意事項を説明 譜面の種類、五線譜、ドラム譜の記譜の説明
【前期or後期】 3～4回目	拍子、弱起、シンコペーションなどの意味や記譜の仕方の説明 反復記号の説明。 省略記号、速度記号、奏法記号
【前期or後期】 5～6回目	平均律12音、全音、半音 音部記号、変化記号 クラシック音楽とジャズ及びロックの違い。その歴史と成り立ち
【前期or後期】 7～8回目	メジャースケール、マイナースケール、ディグリー(度数)、調号 ペンタトニックスケール、ブルーノートについての説明 ブルースについての考察
【前期or後期】 9～10回目	メジャートライアド、マイナートライアド セブンスコード テンションコードなどについての説明
【前期or後期】 11～12回目	オンコード、パワーコードなどについての説明 ダイアトニックコード ドミナントモーション、主要三和音についての説明
【前期or後期】 13～14回目	循環コード、ブルース進行 クリシェ、ペダルなどアレンジについての説明 転調、移調
【前期or後期】 15～17回目	コード進行セオリー 音源及び映像視聴。iPadのピアノアプリ使用
【前期or後期】 18～20回目	講師によるギターやピアノの実演 聴き取りによる採譜
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	ドラマーに必要な音楽的知識を覚えて作曲やコードアレンジにも参加できるドラマーになりましょ
使用教科書	授業用に作成した独自の教科書を使用

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ドラマーズセオリー		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1997年デビュー。その後、レコード会社所属アーティストのサポートメンバーやスタジオミュージシャンとして様々なジャンルのレコーディングやライブへ参加。TV出演やラジオ番組のパーソナリティー、教則本出版等、多方面で活動。				
授業概要					
音楽業界基礎知識やバンドでのデビューまでの流れ、そしてバンドの賢い運営方法など音楽分野の多岐にわたって取り扱う講義					
到達目標					
バンドというチームでライブやイベントに参加するときのコミュニケーションのとり方や大事にしなければならないことを知り1人の社会人として自立したミュージシャンになる術を身に付ける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	イントロダクション 音楽業界基礎知識
【前期】 6～10回目	バンドでのデビューまでの流れ
【前期】 11～15回目	ドラマーとしての各種スキル 練習方法
【前期】 16～20回目	ドラマー視点でのバンドの運営方法
【後期】 1～4回目	ドラマー研究① 各ジャンル(ロック、ポップス)の教則映像鑑賞、及び説明、ディスカッション
【後期】 5～8回目	ドラマー研究② 各ジャンル(ジャズ、ブルーズ)の教則映像鑑賞、及び説明、ディスカッション
【後期】 9～12回目	ドラマー研究③ 各ジャンル(ファンク、プログレ)の教則映像鑑賞、及び説明、ディスカッション
【後期】 13～16回目	ドラマー研究④ 各ジャンル(その他)の教則映像鑑賞、及び説明、ディスカッション
【後期】 17～20回目	セルフプロデュースについて
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	技術、知識その両方を駆使して音楽業界をともに乗りこなそう。
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	分野別講座A	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科、芸能タレント科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経歴23年 高校時代よりバンド活動を行う。専門学校にて学んだ後、1998年レコーディングスタジオに就職し、数々のアーティストの音楽制作業務に携わる。				
授業概要					
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。					
到達目標					
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	・発声の基礎知識 歌唱、台詞(滑舌)
【前期】 3～8回目	・楽器の基礎知識 ギター、ベース、ドラム、キーボード、管楽器、ピアノ
【前期】 9～15回目	・音楽活動における基礎知識 譜面の読み方・書き方、リハーサルスタジオの使い方、楽器メンテナンスの方法
【前期】 16～19回目	・イベントの基礎知識① PA、照明、レコーディングの基礎知識。 イベント資料の作成方法。
【後期】 1～4回目	・イベントの基礎知識② ライブ、レコーディングの進行方法
【後期】 5～9回目	・音の基礎知識 電源、マイクの原理、音の仕組み、デジタル変換
【後期】 10～13回目	・パソコンの基礎知識 スペック、オーディオ、ピクチャ、ムービーについて
【後期】 14～19回目	・卒業後の進路に向けて デビュー、就職
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	今の時代、ある程度の事は自分一人で出来るスキルが求められます。「興味がない、関係ない」で終わらせず、自分自身の為に学ぶという意識を持って取り組んでください。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時テキストデータをPDF形式で配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ベーシック I		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験21年 サポートドラマーとして、様々なジャンルの有名アーティストのライブ、レコーディングに参加。ドラムの教則本を出版。				
授業概要					
ドラムに関する取扱い説明、及び基礎トレーニング					
到達目標					
音楽におけるドラムという楽器の役割を理解し、演奏に必要な身体の使い方と奏法の向上。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ドラムセットのセッティングと調整方法。ドラム譜の読み方。 両手両足の一致、分離を狙ったリズムトレーニング
【前期】 4～9回目	バスドラム、スネアドラム、ハイハットを用いたリズムトレーニングと8ビートの叩き方。 4種類のストロークの説明と練習方法。 ハイハットにおけるダウンストロークとアップストロークの使い方。
【前期】 10～14回目	身体に無理のかからないフットワーク奏法。 シンバル、タムを用いた効率的な移動方法。
【前期】 15～20回目	8分音符、16分音符を使ったフィルインの構築方法とその応用。 アクセントストロークを使ったフィルインの構築とその応用。 左足を使ったリズムキープの仕方とその応用。
【後期】 1～3回目	キメ、ブレイクの説明と音符の長さを意識したアプローチ方法。 アップテンポへのアプローチ方法。
【後期】 4～8回目	バスドラムのダブルアクションの説明と練習方法。 スローテンポ、ミディウムテンポにおける16ビートの叩き分けと練習方法。 バスドラム、スネアドラムと使った16フィルの演奏方法。
【後期】 9～12回目	3連符の説明と演奏方法。 6/8拍子の説明とアプローチ方法。
【後期】 13～15回目	3連符を使ったフィルインの構築方法とその応用。 2拍3連の説明と練習方法。
【後期】 16～19回目	シングルストローク、ダブルストローク、パラディドル説明と練習方法。 4種のパラディドルのドラムセットへの応用。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	ドラムの基本を身に付け、より楽しく演奏の幅を広げましょう。
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	DAW		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経験31年 1990年メジャーデビュー。その後個人で活動を開始し、現在まで積極的に活動し、アルバム7枚、シングル12枚をリリース。				
授業概要					
IPADのアプリ「ガレージバンド」の使用法、音源データ作成。 ※前期、または後期のみ					
到達目標					
自動演奏、手動入力の操作手順を身に付けて、ドラマーとして幅を広げ、ドラム以外のパートも意識できる感覚をを持つ。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	イントロダクション アプリの基本操作。
【前期】 4～11回目	各学生にセットされたミキサーを指定通り調整して講師にメインミキサーに音源を送る作業 トラックモードでデータを作る。
【前期】 12～16回目	コース内のテキストを使って音譜の入力や強弱のつけ方を身に付ける。 教室のパソコンから課題の音源をダウンロードしガレージバンドに読み込ませて、各自で考えたドラムパターンを入力
【前期】 17～20回目	授業で作成したデータを他のタブレットとやり取りをする方法
【後期】 1～19回目	各自で考えたドラムパターンを入力 授業で作成したデータを他のタブレットとやり取り これらの作業を繰り返し、技術と精度を向上させていく
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	打ち込みを覚えてドラムやリズム、音符の並びや汎用性を覚えよう。
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ドラマーの為のギター		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経験20年 2001年メジャーデビュー。その後様々なバンドのサポートや自身で結成したバンドでライブ出演やレコーディングに参加等、積極的に活動中。				
授業概要					
ギターに関する基礎知識、基本的な奏法についての講義。また、実際にアコースティックギターを使用して簡単な試奏を行う。※前期、または後期のみ					
到達目標					
ギターの知識を用いてコード感、歌の持っているリズム感などを修得し、音楽に対する知識、感性を深める。					

授業計画・内容	
【前期or後期】 1～2回目	ギターの種類説明。 ギターの各弦のkeyの説明、実際にチューニングしてみる。
【前期or後期】 3～5回目	基本音階を弾いてみる。 ストロークの説明。
【前期or後期】 6～10回目	ピックを使用して、正しいストロークのフォーム、ピックと弦の当て方等の説明。 コードの押さえ方の説明。
【前期or後期】 11～20回目	実際に弾いてみる。 課題曲を弾けるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	ギターを通してドラマーに必要なコードや他の楽器の気持ちを理解できるドラマーになろう。
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	リズムトレーニング		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験24年 単身ヨーロッパ各地でのギグに参加し、ジャンルに拘らず、ジャズはもちろんのことフュージョン、ロック、ラテンと幅広いリズムに精通するオールマイティ。自身のバンドのリーダーとして都内を中心にライブ活動を展開中。				
授業概要					
リズムトレーニングのセオリーを学ぶ。 ※前期、または後期のみ					
到達目標					
ドラムセットがなくとも自身をコントロールする感覚の維持とテンポキープが出来る自分専用のトレーニングスタイルを作り上げる。					

授業計画・内容	
【前期or後期】 1～4回目	ウォーミングアップ法(シングル、ダブル) シングルストロークの重要性を説明。(4分、8分、16分)
【前期or後期】 5～8回目	ダブルストロークのスネア、タム、フロアタムへの対応方法。 ダブルストロークを用いた各パルスのリズムトレーニング。
【前期or後期】 9～12回目	パラディドルを用いたリズムトレーニング。セオリーと応用。 5ストロークのリズムトレーニング。
【前期or後期】 13～16回目	その他ストロークの確認とテキストを用いた演習。 フラム、ラフの用法。フラムパラディドルの確認。
【前期or後期】 17～20回目	各ストロークを応用したフリーソロの実現。 テンポ、コントロール、フォーム、感覚を網羅するリズムトレーニングの実現。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	リズムの仕組みを知って本当の意味でのリズム感を養いましょう。
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	グルーヴⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1997年デビュー。その後、レコード会社所属アーティストのサポートメンバーやスタジオミュージシャンとして様々なジャンルのレコーディングやライブへ参加。TV出演やラジオ番組のパーソナリティー、教則本出版等、多方面で活動。				
授業概要					
グルーブという観点からドラム演奏の流れに着目し体の使い方から見つめ直す。					
到達目標					
グルーブを中心とした観点からドラマーとして必要なセオリーとテクニックを身に付け楽曲に適したグルーブでの演奏をする為の基盤を作る。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	イントロダクション 各種楽器のセッティングや使用方法、調整の仕方
【前期】 4～8回目	4種類のストロークの説明と使い分け方 ストロークの使い分けを用いた8分、3連、16分のアクセントストローク
【前期】 9～16回目	アクセントストロークを用いたリズムパターンへの応用 8ビート、シャッフル。8分音譜を基調としたリズム シングルストロークロールの説明
【前期】 17～21回目	シングルストロークを用いたリズムの細分化(4分、8分、3連、16分、6連、32分) アクセントストロークやシングルストロークを用いたフィルイン
【後期】 1～3回目	手のストロークとフットワークを使ったコンビネーション 手足のコンビネーションを用いた応用(リズムパターン等)
【後期】 4～8回目	16分音譜を基調としたリズム 楽曲のコピーにおけるグルーブ観点からの解析
【後期】 9～12回目	基本のドラミングフォームの説明 四肢を別々に動かすための練習
【後期】 13～16回目	カメラ撮影を用いた自己分析 リズムパターンの解析
【後期】 17～19回目	ダブルキック等のフットワークの説明 ダブルストロークの説明
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	グルーブ=流れ。流れの有る音楽的なプレイを目指して頑張ろう！
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ベーシックセッションⅠ	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ギターヴォーカルコース、ベースコース、ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験14年 2007年オーディションに合格。その後多数の有名アーティストのサポートミュージシャンとして活躍。ギター、コーラス、キーボード、作詞作曲、プロデュースなど、オールマイティーに活動している。				
授業概要					
セッションをする楽しみを知り、ヴォーカルに合わせたキー変更、テンポ、リズムを変更しアレンジ(編曲)することを学ぶ					
到達目標					
コード・リズム・グルーヴへの理解を深め、アンサンブルに対する自主性を高める。					

授業計画・内容	
【前期】 1～6回目	イントロダクション、曲の締め(かき回し)の練習。
【前期】 7～13回目	8ビートの課題曲の練習。 音作り、中音のバランスの取り方。
【前期】 14～19回目	アレンジしたフレーズ等を譜面への書き起こし。 跳ねた8ビートの課題曲の練習。
【後期】 1～7回目	跳ねた8ビートの課題曲3の練習。 シャッフル・ビートの課題曲の練習
【後期】 8～14回目	学生のオリジナル曲のアレンジ。
【後期】 15～20回目	まとめ。次年度に向けての目標設定。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	コピーにとらわれるのではなく、第三者の演奏に合わせる難しさ、楽しさを知ろう。
使用教科書	それぞれの楽曲ごとに作成したオリジナル教材を使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	フィジカルトレーニングⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験31年 1990年メジャーデビュー。その後個人で活動を開始し、現在まで積極的に活動し、アルバム7枚、シングル12枚をリリース。				
授業概要					
パターンをシンプルに長時間安定して続ける					
到達目標					
ドラマーとして必要なセオリー、及びスキルを身に付け演奏において効率的な体の使い方等の修得					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	イントロダクション
【前期】 3～11回目	チェンジアップ、シングル、ダブル、パラディドル
【前期】 12～20回目	8ビートパターンを3WAY、4WAY、四肢分離
【後期】 1～7回目	裏拍を含めたリズムパターン～FILL。
【後期】 8～14回目	オケをループさせ長時間のリズムキープ、その中で体の使い方、正確な打点をとらえる等のスキル修得
【後期】 15～20回目	16ビート、3連シャッフル系。シンプルなパターンで長時間のリズムキープ
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	様々「効果的」を知って、効率よく演奏をスキルアップ。
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅰ	授業形態 / 必・選	演習	必修
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	7回(28単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐			
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。			
授業概要				
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。				
到達目標				
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。				

授業計画・内容	
1回目～2回目	学園祭準備①②
3回目～4回目	学園祭本番①②
5回目	学園祭片付け、原状回復
6回目	コースイベント
7回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択DAW I		授業形態 / 必・選	講義	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験12年 音声合成ソフトを使ったLP盤を制作するなど、前衛的な表現活動で注目されている。 TVCMへの出演や、コンビニエンスストアのイメージソング提供をきっかけにメディアへの露出を始め、アーティスト活動以外に作家やタレントとしての顔を持つ。				
授業概要					
DAWを使用してトラック製作する方法を学ぶ					
到達目標					
それぞれの音楽活動の幅や、音楽に対する興味を広げる					

授業計画・内容	
1～2回目	主にオーディオデータを使用した製作 Loopの貼り付けなどで、手軽に楽曲製作をしながらDAW操作の基礎を学ぶ
3～4回目	主にデータ入力を使用した製作 一からデータを打ち込んでいく方法で楽曲を作る
5～8回目	オーディオデータを録音する ヴォーカル、ギターなど、実際の演奏を録音してみる
9～12回目	オリジナルトラックの製作 ヴォーカル用のオケ、オリジナル曲のデモ、HipHopやEDMなどのトラック
13～16回目	簡単なMIX 2MIXやパラデータなどの作成
17～20回目	作品完成、及び提出
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	今は誰でもDAWを使用して音楽が作れる時代ですので、自分の音楽制作の幅を広げる為に楽しく学びましょう。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択作曲法	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験36年 様々なアーティストのライブツアーに参加する一方、アレンジャー・キーボーディストとしても活動する。また、ミュージカル、舞台劇、映画、TVドラマ等の音楽制作に当たる。キーボードの教則本を出版しており、近年はトレーナーとしても活動。				
授業概要					
楽曲を分析する事でコード理論を学び作曲に応用する方法を習得する					
到達目標					
音階と調性や音階上に出来る基本コード(ダイアトニックコード)などの基本理論を学ぶ 楽曲を音楽理論的に分析する力を養う 作曲に必要なプロセスを具体的な例を使いながら習得する					

授業計画・内容	
1～2回目	音階とは何か「調」「key」「音域」の定義 音階上にできる基本コード(ダイアトニックコード)
3～4回目	コードの構成音とコードの機能 ディグリを理解することによって調性とコードの機能を正しく理解する
5～8回目	メロディーとコードの関係「和声音」「非和声音」 メロディーの動き「順次進行」「跳躍進行」
9～12回目	キー判定。終始感のある音を見つける事でその曲のキーを判定する 課題曲のコードにディグリを記入する
13～16回目	コード進行の特徴を理解する コードの構成音を理解しメロディーが和声音か非和声音かを区別する
17～20回目	曲のテンポとリズムパターンを聞き取り簡単なリズム譜を作成する
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	音階や調、コード理論を正しく理解する事で音楽をより深く具体的に理解し、作曲や楽器の演奏・歌唱の表現につなげる。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択アンサンブル I	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験31年 1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、バックバンド等のサポートやレコーディングに参加。				
授業概要					
担当講師で定めた課題曲を題材にし、実際に曲の中で用いられている演奏方法や形式などを理解して習得していく。					
到達目標					
原曲の持ち味を知るところから始め、素材として必要な部分を読み取りながらアレンジを行う。					

授業計画・内容	
1～3回目	・課題曲に対しての完成性を追求しながら、曲が持つ重要なポイントを見つける。 ・各パートの関連性を理解し、合奏するときの意識をお互いに持つ。
4～6回目	・課題曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を作る。 ・音符や記号を使い、各パートに必要な情報や変更を譜面に反映させる。 ・記録の重要性を理解し音源の録音をして置く。
7～9回目	・歌詞や譜面から得られる情報に加え、耳から得る音としての情報をしっかり取り入れる。 ・より歌いやすい、演奏しやすい、聴きやすいをテーマに、合奏を心がける。
10～12回目	・実際にステージに立ち音響、照明を入れて演奏する。 ・セッティング図 / セットリスト / 音源 など、必要資料の存在と提出の仕方を知る。
13～16回目	曲に対しての、素早い対応と理解力を向上させトータル的なプロデュースが出来る様になる。
17～20回目	表現方法の一つとし、人前に立ち演奏するところまでをパッケージとして考えられるようにする。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	基本的には「1年アンサンブル」を延長した内容ですが、題材にする既成曲の音楽的な難易度が違ってきます。邦楽が主な題材ですが、洋楽を扱う可能性もあります。
使用教科書	1年次に習得した音楽理論や知識を元に、マスターとなる全パート共通の楽譜を作成し、演奏上必要な情報を書き加えていく。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ヴォーカル I	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験28年 コーラスワークを中心に活動。ポップス、ロック、サルサ、オールディーズ、歌謡曲、演歌などジャンルを問わずさまざまな歌い手のライブサポートやレコーディング、CMなどのスタジオワークを経験。				
授業概要					
腹式発声・腹式呼吸・滑舌・共鳴・支え・喉の開き方、等を体得させ、歌唱表現に対し積極的になれる様導く。					
到達目標					
歌唱を通して、アーティストに必要な不可欠な「人前でのステージング」に対する自信を培う。 また、技術だけではなく仕組みを学ぶことで、自主的にも継続可能な練習へつなげる。					

授業計画・内容	
1～2回目	レベルチェックを行い、クラス分けをする。
3～4回目	発声①腹式呼吸と共鳴(からだのしくみの解説・呼吸法の実践)
5～8回目	発声②ロングトーンとその支え(横隔膜のコントロール 呼気吸気のバランス)
9～12回目	発声③リズムと滑舌・スタッカート(母音子音の口の形 8ビート16ビートそれぞれの感じ方)
13～16回目	発声④表現力を身に付ける(歌詞の解釈・音読 ステージング)
17～20回目	これまでに学んだことを活かして、合同発表会を行う。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	正しい発声方法を学ぶことで、体に負担をかけずに歌えるよう改善していきましょう。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択エレキギターⅠ		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴7年 自身のバンドのギターリストとして活動開始。解散後、サポートギターリストとしてのキャリアを開始し、現在は音楽専門学校で後進の育成も務めている。				
授業概要					
エレキギターの演奏に必要な技術、知識を習得する。 作曲、制作志向の学生も多いので、音楽理論も併せてレッスンをしていく。					
到達目標					
エレキギターの基礎的な演奏技術、楽器の知識を習得する。					

授業計画・内容	
1～2回目	エレクトリックギターの楽器自体の仕組み、TAB譜の読み方や説明
3～4回目	オープンコードの習得
5～8回目	パワーコードの習得
9～12回目	簡単なコード進行の習得
13～16回目	課題曲を用いての演奏
17～20回目	マルチエフェクターの使用方法和サウンドメイキングについて
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	エレキギターの演奏や音楽理論を通じて、アーティスト活動や作曲活動の幅を広げる。
使用教科書	講師が作成したオリジナルのエクササイズ集 演奏用エクササイズは往年のロック・ポップス・のスタンダード、または講師オリジナルのエクササイズ譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択アコースティックギター	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経験13年 自身のバンドでの活動と並行して、サポート・ギタリストとして活動開始。 現在はギターレッスン、レコーディング、楽曲制作、編曲、音楽専門学校での後進の育成など、幅広く活動中。				
授業概要					
アコースティックギターの基礎的な演奏方法や、コード進行の仕組みを学ぶ。					
到達目標					
アコースティックギターの基礎的な演奏技術、楽器の知識を習得する。					

授業計画・内容	
1～2回目	アコースティックギターの各部名称、TAB譜、コードダイアグラムなどの説明。
3～4回目	8ビートのコードストローク、コードチェンジの練習。
5～8回目	ダイアトニックコード(3声、4声)の説明。
9～12回目	主要なコード(メジャー、マイナー、セブンス)のローポジションでの練習。
13～16回目	フィンガースタイルを中心とした課題曲の練習。
17～20回目	アルペジオ、ツーフィンガースタイルの練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	アコースティックギターの演奏を習得して、アーティストとしての表現の幅を広げる。
使用教科書	講師が作成したオリジナルのエクササイズ集 演奏用エクササイズは往年のロック・ポップス・のスタンダード、または講師オリジナルのエクササイズ譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ベースⅠ		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験39年 1982年から100人以上の歌手のサポートを務める。自身がメンバーとして参加する複数のバンドにおいても多数のCDをリリースし、全国各地でコンサート活動を行う。有名ミュージカルの全国公演を含む、多数のミュージカルにも参加。ベースの教則本を執筆。				
授業概要					
ベースの奏法やそれに準じた音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
課題曲におけるベースラインの演奏が可能になる。					

授業計画・内容	
1～2回目	チューニング方法と右手の2フィンガーピッキングの奏法。
3～4回目	左手のフォーム。ワンポジションで弾くメジャースケールの運指。 メジャースケールとマイナースケールの違いと左手のシェイプ。
5～8回目	4小節程度の簡単なコード進行でコードトーンを弾いてみる。 左手のフォームの強化(筋トレ)音符の説明とリズムトレーニング。
9～12回目	譜面の読み方、音階の説明。短い楽曲(リフモノ含む)をメトロノームと一緒に演奏。 ピック奏法。
13～16回目	ピック奏法で短い楽曲をメトロノームと一緒に演奏。
17～20回目	簡単なリフ等を演奏。楽曲演奏に挑戦。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	上達には個人差があるので焦らない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ドラムⅠ		授業形態／必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験21年 サポートドラマーとして、様々なジャンルの有名アーティストのライブ、レコーディングに参加。ドラムの教則本を出版。				
授業概要					
基本的なリズムやグルーブを習得する。					
到達目標					
様々な分野で活動していく為にドラム演奏を通して表現力に幅を出せる様にする。					

授業計画・内容	
1～2回目	自己紹介、授業内容の説明。 到達点、目標をそれぞれ決めてもらう。
3～4回目	楽器の名称、簡単なドラム譜の読み方、各楽器の特徴、セッティング方法。 8ビート:様々なフットワークを用い、8分音符を基調としたリズムパターン。
5～8回目	フィルイン:8分音符を基調としたリズムパターンにフィルインを入れる。
9～12回目	16ビート:16分音符を基調としたリズムパターンにフィルインを入れる。
13～16回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
17～20回目	課題曲に合わせ演奏。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	日々のテクニックの積み重ねが必要な為、常日頃からの鍛錬を怠らない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択キーボードⅠ	授業形態 / 必・選		実習		選択	
		年次		1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数		1単位	
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース						
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐						
担当講師 実務経歴	実務経験23年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。 バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。						
授業概要							
キーボードの初歩的な演奏方法と、音楽理論を習得する。							
到達目標							
コード演奏およびアルペジオでの演奏を習得したうえで、左右とも違う運指可能となる。							

授業計画・内容	
1～2回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
3～4回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
5～8回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
9～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～20回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ダンスⅠ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴16年 アメリカへの留学経験もあり、帰国後は女性シンガーの専属ダンサーとして全てのステージで10年間メインダンサーを務める。 現在のジャンルはJazz Funkを中心に、Body Makingのインストラクターとしても活動中。				
授業概要					
アイソレーションや簡単な振付など、基礎的なレッスンを中心に行う。					
到達目標					
ダンスを通じてリズム感を養う。 体を使って表現することで、自身のアーティスト活動におけるパフォーマンス力を身に着ける。					

授業計画・内容	
1～2回目	基本的な身体の使い方をストレッチなどを通して学ぶ。
3～4回目	身体の細かい部分の動かし方を習得する。
5～8回目	音楽やリズムに合った身体の動かし方を学ぶ。
9～12回目	課題曲を使用してのリズムの取り方と、振り付けをパートごとに練習する。
13～16回目	課題曲および振り付けを使用して、1曲通して練習する。
17～20回目	授業内発表会
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	基本的な身体の動かし方など、初歩の部分から初めていきますので、楽しみながらダンスの基礎を習得してください。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択リズムアンサンブル	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験13年 卒業後アフリカンドラムに出会い、さらに造詣を深める為アフリカへ渡る。 帰国後はベーシスト、パーカッショニスト、ギタリストとマルチプレーヤーとして現在も活躍中。				
授業概要					
歌を歌うこと、楽器の演奏、ダンス等、音楽を通しての表現を行う中で、要素としての「リズム」にまつわることをパーカッションを使用して体験し学んでいく授業。同時に「グルーブ」というものは何かということを実際に経験出来る授業である。					
到達目標					
リズムに対する考え方や感じ方から、アンサンブルの基本(ダンス等も含めた広い意味でのアンサンブル)、お互いの音や声や動きの捉え方などを広く学び、習得する。					

授業計画・内容	
1～2回目	使用するパーカッション『ジェンベ』『ドウンドウン』の楽器としての構造、発祥した地域、簡単な歴史、構え方、音の出し方などの解説。
3～4回目	練習用の簡単なフレーズを通して実際に音を出してみる。そして、その楽器のサウンドを知る。
5～8回目	実際のアフリカの伝統的なリズムのフレーズを学ぶ。
9～12回目	同じリズムの中にも各楽器において1種類から3種類程度のフレーズがあるのでそれを学ぶ。それを合奏することで「ポリリズム」を学ぶ。
13～16回目	一人ずつ個別に練習するのではなく、全員で合わせて合奏しながら反復していく。
17～20回目	イントロやアウトロのフレーズなどをつけ曲にしていく。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	一貫してパーカッションを使用するがその楽器の上達が第一目標ではなく、あくまでもアンサンブルをする上での重要なノウハウとリズムについてを学ぶことが目的である。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。